

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

(株) 日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

刀 剣 界

その後、内弟子となり、修業を始める。親方は柄巻きだけでなく拵全般を作る人でした。やり方を一度見せるだけで仕事をやらされ、上手にできないと「お前は手でしたのか、足でしたのか」と叱られたのをよく覚えています。住み込みで、朝から銭湯が閉まる夜の十時まで仕事をする毎日でした。

結局一年半お世話になり、親方の元を離れ、家に戻りましたが、刀装の仕事はなく、保育園の送迎バスの運転手をしていました。

二年ぐらい経った頃、福岡市に住む研師の藤本政嘉先生から声をかけていただき、仕事を頂くようになりました。この出会いがなければ刀装の仕事は辞めていたと思います。

藤本先生からの仕事は柄巻き・鞘・鍔・鞘塗りに至るまで何でもさせていただき、おかげで刀装の仕事で生活ができるようになった。藤本先生の勧めで平成五年、コンクールに初出品、柄前の部で努力賞を受賞。藤本先生はお金がなくて困っている私に、縁頭・目貫などたくさん的小道具を提供してくださいました。今でも感謝しております。今までに刀剣関係の多くの大先輩からご指導を頂き、今日までやってゐることができました。

八年前に日頃お世話になっている刀剣商から「久保さん、これと同じ鞘ができますか」と言われて見せていただいたのが、重要刀装の縦篠刻黒漆塗菊唐草文時絵鞘打刀拵でした。

鞘には約一・五^三幅の縦刻み

があり、鯉口から鐙に向かって少しずつ細くなっていて、江戸時代の鞘師の技術に驚愕しました。詳細に観察したところ、鞘は漆を塗る前の鞘下地に刻みを入れていることがわかりました。正しい製作方法が伝承されておらず、いろいろな方法を試みましたが正確に刻むことができず、諦めていました。

しかし、どうしてもこの鞘を現代刀職展に出品したいこの思いで試行錯誤を繰り返した結果、この方法であればというやり方で試すと、どうにかきれいに刻むことができました。合計十本目でしたが、尋常ではない集中力が必要でした。

令和のコンクールでは二本目にして作り上げることができました。

日本刀とともに細く長く歩み続けた五十年の記念になりました。心より感謝申し上げます。

柄前の部 久保謙太郎

この度は大賞を頂きまして誠にありがとうございます。

この世界ではまだまだ未熟者ですが、柄巻きを始めてもうすぐ十二年が経ちます。

日本刀の拵のこととなると、手厳しい父親です。どれだけ時間をかけて一生懸命に巻いた柄でも出来が悪ければやり直し、三回も同じ柄をほどいた時は辞めたいと思うほどでした。けれどもその厳しさがあったからこそ、今回の大賞だと思っています。

昔に巻いた綺麗で美しい柄巻きを見る度に「どうしたら綺麗に巻けるのか。どうしたら緩ま

ずに巻けるのか」答えのある宿題をもらったような気持ちで見えていました。

その答えをこの手で実現させようと柄を巻いていましたが、実用性を求めると美術性がなくなり、美術性を求めると実用性がなくなり、いろいろと考えさせられる日々でした。緩まずに美しさのある柄を巻くことが柄巻師の最低限の仕事であり、また最高の仕事だと思っています。特に「留め」で美しく柄糸をこなす技術は、容易なものではありません。

職方総覧の本を読んでいた時、「柄形、蛟皮張りなどの巻き下工作を入念にし、実戦にも耐え得る強度の巻きを紐に逆らわずに施すこと。このような巻きであれば品位は自と発するものです」との昔の柄巻師の言葉を見た時、なぜか柄を巻くときのヒントを頂けたような気がしました。

今回の柄巻は極細の笹波系（金糸色）を二本使用して巻き上げました。笹波系は通常使用される常組糸とは違い、とても堅く巻きにくく、また極細糸のためつまんだ紐が開きやすく苦労しました。中にはくすね以外の接着材を用いたり、つまんだところを糸で縫ったりされる方がいますが、私はくすねと巻く技術のみで巻き上げました。

一度目はうまくいかず、二回目はどうにか巻くことができました。苦勞して巻いた柄巻きなので、大賞を受賞できてとても嬉しかったです。今回の賞に満足することなく、これからも精進してまいります。

大 賞 受 賞 者 の 経 歴

久保善博（刀匠）
昭和40年 鹿児島県奄美大島生まれ
平成元年 千葉大学園芸学部農芸化学科大学院修了、吉原義人師に入門
6年 文化庁より作刀承認を受け独立、島根県仁多郡横田町へ移住
「新作名刀展」初出品、優秀賞・新人賞
7年 日刀保たたら村下養成員になる（平成13年まで）
10年 刀匠8人展・叢雲会を結成。東京・パリなどで展示会を開催（平成22年まで）
12年 日立金属冶金研究所客員研究員としてたたら製鉄と日本刀研究を開始
13年 広島県庄原市西城町に久保善博日本刀鍛錬道場を開く
17年 (社)日本鉄鋼協会誌『鉄と鋼』1月号にたたら製鉄について論文発表
18年 「新作名刀展」第二席・文化庁長官賞
19年 「新作名刀展」第一席・日本美術刀剣保存協会会長賞
「第2回お守り刀展覧会」第一席・岡山県知事賞
21年 「第4回お守り刀展覧会」第一席・岡山県知事賞
22年 「第5回お守り刀展覧会」審査員
24年 文化庁主催美術刀剣刀匠技術保存研修会の実技指導講師
「第3回新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」協会会長賞
25年 金属歴史国際会議BUMA-VIII（奈良）にてたたら製鉄について発表
「第8回お守り刀展覧会」審査員
26年 「第5回新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」協会会長賞
27年 「新作名刀展」第一席・高松宮記念賞
警視總監特別賞の短刀を謹作
28年 広島県無形文化財「日本刀製作技術」保持者に認定
29年 「現代刀職展」第一席・高松宮記念賞、無鑑査認定
30年 鹿児島市にて陶芸家の実姉と二人展「陶刀姉弟展」開催
「第13回お守り刀展覧会」駐日ポーランド共和国大使賞
令和元年 「平成の名刀・名工展」特別奨励賞
全日本刀匠会副会長就任
3年 「現代刀職展」審査員
「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」審査員
公益財団法人日本刀文化振興協会「日本刀名匠（作刀）」認定
連絡先＝〒729-5722 広島県庄原市西城町大佐495



久保善博

玉置城二（研師）
昭和48年5月23日生まれ
平成4年より研磨に従事
伏見稻荷大社、北野天満宮、賀茂別雷神社（上賀茂神社）、石切劔箭神社、大覚寺、高台寺、本能寺、金剛寺等、各寺社所蔵刀剣の修復研磨
京都国立博物館、大阪歴史博物館、黒川古文化研究所、柏原美術館等、各館収蔵品の修復研磨
国宝「山鳥毛」、重要文化財「義元左文字」「骨喰藤四郎」等の全身押形採拓
連絡先＝〒606-0024 京都市左京区岩倉花園町541-94
☎075-721-2735 https://kyoto-katana.com/



玉置城二

久保純一（鞘師）
昭和30年 福岡県生まれ
48年 柄巻師松成栄勝に師事
56年 独立
平成5年～令和元年 「現代刀職展」（旧「刀剣研磨・外装技術発表会」）特賞2回、優秀賞19回、努力賞14回受賞
平成26年 「第9回お守り刀展覧会」外装の部特賞第1席・坂城町長賞
27年 「第10回お守り刀展覧会」外装の部特賞第1席・熊本県知事賞。特別賞・日立金属賞
令和元年 （公財）日本美術刀剣保存協会無鑑査認定
刀剣研磨・外装技術研修会講師
刀職技能訓練講習会講師
4年 現代刀職展審査員
連絡先＝〒824-0049 福岡県行橋市福原202-3
☎0930-23-3896



久保純一

久保謙太郎（柄巻師）
1992年 福岡県生まれ
2011年 鞘師久保純一（父）に師事
（公財）日本美術刀剣保存協会「現代刀職展」（旧「刀剣研磨・外装技術発表会」）柄前の部において特賞2回、優秀賞1回、努力賞5回受賞、刀装の部において特賞1回、優秀賞4回、努力賞3回受賞
連絡先＝〒824-0049 福岡県行橋市福原202-3
☎080-3375-8159



久保謙太郎

刀 剣 界

【2022 年現代刀職展・審査結果】

公益財団法人日本美術刀剣保存協会主催、2022 年度「現代刀職展―今に伝わるいにしへの技」は、作刀・刀身彫・彫金の部および研磨・白鞘・刀装・柄前・白銀の部の審査がそれぞれ行われ、その結果がこのほど発表になった。

作品の展示は 11 月 29 日から 12 月 29 日まで刀剣博物館で行われ、表彰式はその初日に開催される。

■作刀・刀身彫・彫金の部

部門	賞	氏名
太刀・刀・脇指・薙刀・槍の部	高松宮記念賞	森國 利文
	薫山賞	木村 光宏
	寒山賞	高橋 祐哉
	日本美術刀剣保存協会会長賞	北川 哲士
	優秀賞一席	清水 達吉
	優秀賞二席	加藤 政也
	優秀賞三席	安藤 祐介
	優秀賞四席	小宮 治氣
	優秀賞五席	羽岡 慎仁
	努力賞一席	田中 諭
	努力賞二席	曾根 寛
	努力賞三席	富岡 慶一郎
	努力賞四席	古山 直樹
	入選一席	藤田 宗久
	入選二席	宮下 輝
	入選三席	工藤 芳洋
	入選四席	森 光秀
	入選五席	伊藤 重光
	入選六席	新名 公明
	入選七席	吉田 政也
	入選八席	太田 周作
短刀・劍の部	薫山賞	高橋 祐哉
	寒山賞	安藤 祐介
	優秀賞一席	木村 光宏
	優秀賞二席	新保 基治
	努力賞一席	渡辺 徹
	努力賞二席	工藤 芳洋
	努力賞三席	上畠 誠
	努力賞四席	伊藤 重光
	入選一席	高羽 弘宗
	入選二席	松川 隆
彫金の部	入選三席	森 光秀
	入選四席	吉田 政也
	入選五席	佐々木 直彦
	入選六席	岡本 克博
	薫山賞	柳川 清次
	優秀賞一席	福與 裕毅
	優秀賞二席	川島 義之
	優秀賞三席	阪井 淳
	努力賞一席	高橋 正樹
	努力賞二席	大川 千光
	努力賞三席	宮本 恒之
	努力賞四席	藤川 耕生
	努力賞五席	三角 恭兵
	努力賞六席	佐藤 周
	入選一席	前田 航汰
	入選二席	太佐 誠治
	入選三席	福山 葵
	入選四席	山口 正興
	入選五席	中村 晋也
	入選六席	恩田 秀人
刀身彫の部	優秀賞	柏木 幸治

■研磨・白鞘・刀装・柄前・白銀の部

研磨鑄造の部	文部科学大臣賞	各務 弦太
	木屋賞	是澤 光昌
	竹屋賞	真津 仁彰
	千葉賞	松村 壮太郎
	薫山賞	森井 鐵太郎
	寒山賞	小川 和比古
	日本美術刀剣保存協会会長賞	諸富 剛
	優秀賞一席	柏木 良
	優秀賞二席	松尾 清健
	優秀賞三席	神山 貴恵
	優秀賞四席	細村 正勝
	優秀賞五席	玉置 城二
	優秀賞六席	福森 克一郎
	優秀賞七席	ヘンドリック・リンデラウフ
	優秀賞八席	井上 聡
	優秀賞九席	長岡 靖昌
	優秀賞十席	三浦 弘貴
	優秀賞十一席	平井 隆守
	努力賞一席	菊池 真修
	努力賞二席	川上 陽一郎
	努力賞三席	多田 芳徳
白鞘の部	努力賞四席	枝松 孝治
	努力賞五席	大門 健士郎
	努力賞六席	曾我 文麿
	努力賞七席	小宮 光敏
	努力賞八席	横山 智庸
	努力賞九席	柿沼 進一
	努力賞十席	細越 敬喜

部門	賞	氏名
研磨鑄造の部	努力賞十一席	赤川 裕実
	努力賞十二席	相良 雄一
	入選一席	鈴木 勇
	入選二席	神 早紀
	入選三席	倉田 竜太郎
	入選四席	岩政 銅輝
	入選五席	米川 好次
	入選六席	阿部 義貞
	入選七席	岡田 勝裕
	入選八席	和田 祥一
	入選九席	Martin Hornak
	入選十席	中本 淳一
	入選（以下入選は五十音順）	秋田 勇喜
	入選	大越 明友
	入選	大西 浩史
	入選	今野 勝也
	入選	酒井 完
	入選	坂上 梓
	入選	佐藤 秀明
	入選	田中 賢治郎
	入選	鶴田 一成
研磨平造の部	入選	中北 孝文
	入選	根本 卓
	入選	脇田 聰一郎
	寒山賞	玉置 城二
	日本美術刀剣保存協会会長賞	阿部 義貞
	優秀賞一席	森井 鐵太郎
	優秀賞二席	松尾 清健
	優秀賞三席	横山 智庸
	優秀賞四席	神山 貴恵
	努力賞一席	ヘンドリック・リンデラウフ
	努力賞二席	柏木 良
	努力賞三席	平井 隆守
	努力賞四席	曾我 文麿
	努力賞五席	是澤 光昌
	努力賞六席	岩政 銅輝
	努力賞七席	多田 芳徳
	入選一席	長岡 靖昌
	入選二席	齋藤 秀夫
	入選三席	各務 弦太
	入選四席	中村 佳夫
白鞘の部	入選五席	堀 壮一郎
	入選六席	細越 敬喜
	入選七席	大門 健士郎
	入選八席	秋田 勇喜
	入選九席	栗崎 佳子
	入選十席	安井 隆之
	入選（以下入選は五十音順）	上條 徹
	入選	北脇 義晴
	入選	新谷 信幸
	優秀賞	橋本 幸律
	努力賞一席	千葉 正義
	努力賞二席	河合 広明
	努力賞三席	柿沼 進一
	努力賞四席	宮澤 則幸
	入選一席	千葉 俊和
	入選二席	三好 正和
	入選三席	野田 芳孝
	入選四席	今野 利幸
	入選五席	遠藤 鴻
	入選六席	森井 敦央
刀装の部	優秀賞	中屋 健二
	努力賞	泉本 哲弥
	入選一席	遠藤 鴻
	入選二席	平山 直弥
	日本美術刀剣保存協会会長賞	久保 謙太郎
	優秀賞一席	松田 那由太
	優秀賞二席	橋本 幸律
	努力賞一席	山田 真也
	努力賞二席	小出 匡毅
	努力賞三席	矢倉 聡一
	努力賞四席	飯山 隆司
	入選一席	大槻 良一
	入選二席	小形 純子
	入選三席	中山 恒久
	入選四席	野田 芳孝
柄前の部	日本美術刀剣保存協会会長賞	三島 幹則
	努力賞一席	佐藤 周
	努力賞二席	武田 典明
	努力賞三席	上野 宏樹
	入選一席	中村 晋也
	入選二席	武藤 健
	入選三席	柿沼 進一
	入選四席	野田 芳孝

【「令和の名刀・名工展」受賞者】

■作刀の部

受賞	氏名	都道府県
大賞	久保 善博	広島県
準大賞一席	宗 正敏	福岡県
準大賞二席	高見 一良	兵庫県
準大賞三席	根津 啓	長野県
入賞一席	河内 一平	長野県
入賞二席	河内 道雄	奈良県
入賞三席	川崎 仁史	埼玉県
入選	赤松 伸咲	岡山県
入選	石田 智久	群馬県
入選	太田 周作	奈良県
入選	小澤 茂範	神奈川県
入選	月山 一郎	奈良県
入選	月山 清	奈良県
入選	上山 陽三	岡山県
入選	北川 哲士	滋賀県
入選	木村 光宏	熊本県
入選	興梠 宏明	大分県
入選	小宮早陽光	福岡県
入選	小宮 治氣	福岡県
入選	佐々木直彦	北海道
入選	新保 基治	新潟県
入選	新名 公明	大分県
入選	西村 淳	佐賀県
入選	藤原 俊和	奈良県
入選	松川 隆	長野県
入選	宮入 恵	長野県
入選	宮入 陽	長野県
入選	吉川 三男	東京都
入選	吉田 政也	岐阜県

■刀身彫の部

入賞	木下 宗憲	岡山県
----	-------	-----

■彫金の部

準大賞	川島 義之	静岡県
入選	泉 公士郎	東京都
入選	恩田 秀人	埼玉県
入選	片山 恒	岡山県
入選	川上 登	東京都
入選	武田 守夫	茨城県
入選	フローデリック・ジェフ	東京都
入選	柳川 清次	千葉県

■研磨の部

大賞	玉置 城二	京都府
準大賞	阿部聡一郎	東京都
入賞一席	川上陽一郎	埼玉県
入賞二席	森井鐵太郎	埼玉県
入賞三席	松村壮太郎	千葉県
入賞四席	藤代 興里	東京都
入賞五席	横山 智庸	岡山県
入選	秋田 勇喜	神奈川県
入選	井上 聡	兵庫県
入選	小川和比古	千葉県
入選	柏木 良	鳥取県
入選	菊池 真修	岩手県
入選	小宮 光敏	福岡県
入選	是澤 光昌	神奈川県
入選	相良 雄一	神奈川県
入選	藤代 龍哉	東京都
入選	松尾 清健	福岡県
入選	三浦 弘貴	宮城県
入選	水田 吉政	埼玉県
入選	和田 祥一	千葉県

■刀装・拵の部

準大賞一席	久保 純一	福岡県
準大賞二席	久保謙太郎	福岡県
入賞	森井 敦央	神奈川県
入選	山田 真也	岐阜県

■刀装・拵下地の部

大賞	久保 純一	福岡県
----	-------	-----

■刀装・鞘塗の部

入賞	久保 純一	福岡県
入選	小山 光秀	新潟県

■柄前の部

大賞	久保謙太郎	福岡県
準大賞一席	山田 真也	岐阜県
準大賞二席	矢倉 聡一	神奈川県
入選	小出 匡毅	京都府
入選	橋本 幸律	岡山県
入選	平山 直弥	神奈川県

■白銀の部

入選	武藤 健	神奈川県
----	------	------

※入選は五十音順

刀 剣 界

「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」事務局長・山田宏参院議員に聞く 刀剣と和鉄の伝統に力強い支援を！

■設立から四年、第一回「平成の名刀・名工展」が開催され、刀剣関連予算は毎年増額されるなど、目覚ましい活動を見せる同議連。その経過と今後について伺った。

（聞き手／深海信彦）
——この度は当選おめでとうございます。

山田 ありがとうございます。刀剣組合の組合員・賛助会員をはじめ、皆さんには大変お世話になりましたこと、感謝申し上げます。
——刀剣議連の先生方には、今後とも一層のご活躍を期待しております。

ところで、こちらの事務所に飾られている半太刀拵ですが、一作金具のいかにも実用的な、往時の面影があります。

山田 私に家に伝わっていたものの一振です。生家は山口県熊毛郡田布施町麻郷で、先祖は大野毛利家に仕え馬廻役を務めていました。そんなわけで、青龍軒盛俊の刀や槍が幾振も伝わっていたのですが、戦後にかけて散逸し、今はこの弘化四年の盛俊だけです。

——盛俊は岩国藩の抱え工でしたが、家臣であっても容易に持てる刀ではなかったでしょう。師の長運齋綱俊が子の是俊十二歳をはるばる岩国に送り、盛俊に弟子入りさせています。それが弘化四年、盛俊四十六歳の時です。技量もさることながら、よほど信頼されていたと思われます。

山田 そうですか。いわゆる郷土



山田参議院議員(右)と深海理事長

刀ですが、それを伺って愛着もひとしおです。

——先生が「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」の設立を発起された当時、河端照孝さんと一緒にしてお目にかかりましたが、

先生は日本刀が外国製の粗製品に侵食されることを非常に心配しておられました。登録審査制度によって幸い国内では見ませんが、海外では出回っているようです。しかし、きわめて低廉に作られているという外装は、入ってくる危険性があります。

山田 確かにそういう危機感がありました。今もあります。かつては日刀保会長を務められた山中貞則・橋本龍太郎両先生をはじめ、衆参両院に日本刀に精通した方々がおられたが、今はいません。そこで、同志を募って議連を作ったというわけです。

日本刀はわが国美術の最たるものでありながら、刀匠たちは厳しい状況に置かれ、タタフは復活したとはいえ、生産量も限られる。刀剣や和鉄の文化再興は喫緊の課題だと考えました。

念願だった「令和の名刀・名工展」は、刀剣業界の協力を得て第一回を迎えることができました。今後は、継続していくことが何よりも大事です。

——先生は「一番の方を人間国宝に」というのは、コンクールの趣旨ではないと喝破されました。人間国宝には技量以外にも求められる不可欠の要件がある、と。

山田 それは、必ずしもコンクールを軽視することではない。世界で通用する日本刀のブランディング化にとって、裏付けとなる強力な要素ですから。

——それ以外にも議連は当初から、①人材育成の支援強化、②製

作承認に関する運用の改善、③和鉄の活用拡大策、などを掲げておられました。それらの課題の多くは、関連予算の増額として毎年前進を見えています。

山田 この世界を振興していくには、何よりも売れることが大事です。日本刀を海外にアピールし、現代刀を美術品として輸出していく。それには、年間二十四振に制約されている製作枠の見直しも必要でしょう。

——当組合は設立三十五年ですが、銃刀法第十四条に規定される所有者変更届の履行を三十年前から呼びかけてきました。その結果、かつては有名無実だった名義変更が確実に行われ、事件や事故の際でも、刀の履歴を正確にたどれるように変わりました。われわれも斯界の発展のために、共に力を尽くしていきたいと考えます。

山田 日本刀は素晴らしい。見ていると邪念が消え、心が静まり、新たな力が湧いてきます。議連では近く、長船刀剣博物館に「山鳥毛」を鑑賞に行く予定です。

——本日はご多用な折にもかかわらず、時間を割いていただき、誠にありがとうございました。

「大刀剣市2022」の開催に当たって

「大刀剣市実行委員長 綱取 譲一

長年にわたり「大刀剣市」の実行委員長を務められた清水儀孝事務理事に代わり、今回、やらせていただくことになった綱取です。至らぬところが多々あり、申し訳なく思っています。

この原稿を書いている九月二十一日の時点でカタログ印刷など、少し遅れ気味ではありますが、着実に前へ向かっています。何はと申す、ここまでこぎつけることができたのは、新型コロナウイルスの感染者数が減る方向に転じ、政府も経済活動を優先する方針を打ち出したからです。何よりも組合員の、都民の、国民の感染対策が真面目だったからと考えます。

私たち理事会も揺れました。この組合は愛刀家だけが見ているのではなく、ほかの業界から見られている。模範を示すべく、お客さまの安全のためにももう一年見送ってはどうか、という意見も出ました。

この意見に賛同した理事が一組合員に「お前は理事会で大刀剣市

年も募金をよろしくお願い申し上げます。

大刀剣市は一度ニマムになります。重文室の展示、お宝鑑定コーナーはお休みです。不自由をおかけしますが、お弁当の販売も食事スペースもありません。カタログのページ数も少なくなります。

本年はこのスタイルですが、近未来を見据えてください。皆さんの健康管理をお願いします。まずは祈りましょう。明るい大刀剣市像が見えてきます。

「大刀剣市」出展料金の改定について

新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が依然として続く中、食糧や資源の供給制約が世界規模で広がっています。

わが国でもこれらの影響に加え、輸入コストの上昇、円安による原材料価格の高騰、労働力不足から来る賃金アップなどが重なり、広く物価の上昇が及んでいます。

この一連の物価高騰は「大刀剣市」の開催にも大きく影響を与えようとしています。

大刀剣市の主たる収入は出店料であり、これによってカタログ制作費・販売促進費・会場設営費・警備費等の諸経費を賄っています。既に開催に関わる業務委託企業

警察庁を訪問し、組合活動を報告

令和二年以来、コロナウイルスが蔓延する中、監行行政庁である警察庁へ伺って組合活動の報告をすべきところ、訪問を控えていました。

そこで本年は六月二十二日、三年ぶりに深海理事長、清水専務理事、それに筆者の三名で訪問し、令和三年度の組合活動の報告をいたしました。

警察庁生活安全局生活安全企画課犯罪抑止対策室の井浩幸課長

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定
(株)城南堂古美術店

代表

田中 勝憲

〒153-0005
東京都目黒区上目黒四-3-110
TEL 03-3771-0676
03-3771-0676
FAX 03-3771-0676

から料金改定(値上げ)の事前通告があり、従来の想定を大きく上回っています。また、今回の開催は感染症対策にも万全を期さなくてはなりません。前回までは、経費の節減等により出店料の据え置きに尽力してまいりましたが、前記の理由により従来の料金を維持することが困難となりました。

つきましては、誠に恐縮ではありますが、出店料の改定をさせていただきます。

新出店料金については、七月に出店申し込みを頂きました組合員へ配布済みの「令和四年大刀剣市出店のご案内」をご確認ください。ますようお願いいたします。

実行委員会スタッフはボラン

ティアの活動ではありますが、魅力ある大刀剣市の運営に一丸と成って尽力してまいります。ご理解を賜りますようお願いいたします。

（大刀剣市）実行委員会

また、平成三年から発行している『やさしい刀』にも、当初から警察庁の編集協力を頂いています。年月を経て、改訂版の制作も必要な時期にきていますので、本書への編集協力をあらためてお願いしました。

今後とも警察庁のご指導を仰ぎながら、刀剣関連の法令遵守を推進し、誰もが安心して日本刀を所持できる環境を当組合は目指してまいります。

(嶋田伸夫)

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

●刀剣議連の総会が開かれる

春風の心地よい季節の四月十二日、参議院議員会館会議室において「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」の総会が開催されまし



刀剣議連総会に出席された皆さん

た。会議には公益財団法人日本美術刀剣保存協会、公益財団法人日本刀文化振興協会、全日本刀匠会、全国刀剣商業協同組合の四団体も招かれ、当組合からは深海理事長と伊波副理事長、それに私清水が参加してまいりました。

同議連は平成三十年二月に発足し、甘利明衆議院議員、細田博之衆議院議員、竹下亘衆議院議員が共同代表となり、さまざまな活動を行ってきました。共同代表のお一人であった竹下亘先生が残念ながら昨年九月十七日にご逝去になられたので、初めに全員で黙とうし、哀悼の意を表しました。

続いて、事務局長の山田宏参議院議員の総会司会の下、甘利衆議院議員、細田衆議院議員の挨拶があり、

NEWS & TOPICS
第四回刀剣美術論文賞は
小島つとむ氏に決定

公益財団法人日本美術刀剣保存協会の令和四年「刀剣美術論文賞」は、小島つとむ氏の「細川正義の研究―作州津山藩『江戸日記』と鹿沼『細川家文書』に見る刀鍛冶の生涯」に決まり、賞状と賞金が贈られた。

去る四月十八日、選考委員会が開催され、令和二年四月号から同四年三月号までの『刀剣美術』掲載論文の中から、小島氏の論文が受賞作品に決定した。

この論文は、令和三年七・九月号の三号にわたって掲載された。津山藩の記録『江戸日記』（津山郷土博物館蔵）と細川正義の実家に伝わった『細川家文書』（鹿沼

総会に入りました。

文化庁文化財第一課・鍋島豊課長から、刀剣・和鉄文化の保存振興に関する令和四年度予算（総額二七二六万円）の説明があり、内訳として、刀剣関係団体等が行う研修への支援、玉鋼製造技術の保存支援、美術刀剣製作のための研修会、銃砲刀剣類の登録鑑定実技講習会、国宝・重要文化財刀剣の修理に対する補助などの個別事業について解説がなされました。

次に山田事務局長から「令和の名刀・名工展」について、本年度より日本美術刀剣保存協会と全日本刀匠会の共催で定期的に開催し、文化庁もしっかり支援していくことになったとの説明がありました。

続いて、質疑応答があり、議連幹事長・逢沢一郎衆議院議員の閉会の挨拶で総会は終了しました。

閉会後、日本美術刀剣保存協会の計らいで名刀鑑賞会が開催され、参加議員の皆さんは多忙な公務を縫ってのひととき、五振の名刀を楽しまれました。

（清水儀孝）

教育委員会蔵）を分析し、細川正義とその妻、子忠義、正守らの家族関係、さらには弟子の城慶子正明の出自について、従来知られていなかったことを明らかにし、作品を提示して細川正義らの生涯を考察している。

刀剣等の研究奨励を目的に始まった論文賞は今年で四回目。一定期間内に『刀剣美術』で発表された論文を対象に審査し、優れた論文一本を選んで発表するもの。第一回は平成二十八年、花岡忠男氏「真雄・清麿と兼虎 逸史残霞」、第二回は平成三十年、宇佐美こすも氏「贈答太刀の拵から見る義教期公武関係―黒漆太刀と平鞘太刀

の使い分けを中心に、令和二年の第三回は佐藤一典氏「仙台藩刀匠考（28）流転の刀工『一流斎貞俊』及び同二代の存在探求とその周辺―有縁と思料される刀工らを加えて」。



群馬県立歴史博物館で開かれていた「戦国上州の刀剣と甲冑」

古聴
第七回

封印されたコレクション

網取 譲一

群馬県立歴史博物館で八月二十八日まで開催されていた特別展「戦国上州の刀剣と甲冑」を見て思い出した目利きの人がいたので記す。

東京都品川区の西光寺住職、日本甲冑武具研究保存会常務理事だった芳賀実成氏は、難病で入院されていた奥様を見舞う、また築地本願寺に用を足すついでによく俺の職場に来て声をかけてくれた。笑いを取りながら、何かワンポイントを俺に教えてくれた。

江戸後期の甲冑師の必須科目の一つ大円山、二十二間の筋兜鉢を店頭に飾った俺に「眉庇の先端を棚から前方下に落としてみなさい。ほら、南北朝風に見える」。六十二間小星兜を店頭に飾れば「おつ、いいね、武田勝頼か。数えてみよう」と言って一行の星数を数え始めた。「うん、二十九か、残念だなあ。一行三千三打ってあったら私が買いますよ」と。

確かに二十八・三十一は多いの使い分けを中心に、令和二年の第三回は佐藤一典氏「仙台藩刀匠考（28）流転の刀工『一流斎貞俊』及び同二代の存在探求とその周辺―有縁と思料される刀工らを加えて」。

花岡氏は清麿を、佐藤氏は仙台の刀工をテーマとし長年にわたって研究。第二回の宇佐美氏は公家の日記中の刀の史料を分析し、公武関係論を視野に入れながら、贈答や儀式と拵の実情を検討した研究。いずれも一つのテーマがじつくりと掘り下げられている。

なお、小島氏は、本紙「刀剣界」に毎回、刀剣や歴史に関する研究書や小説の、興味をそてるユニークな書評を寄せられている。今後ますますの活躍を期待したい。

正実氏と俺、そこに刀剣界からは備前刀学会の加島進氏を加えて三名。その三名以外はほぼ全員が宗教法人間係。会食は会費を兼ねて、後継者のいない西光寺の問題を宗教法人間係に基つき議論を重ねている。俺、小沢さん、加島さんは蚊帳の外だ。聞くともなく聞いていて、俺は「封印します」がギャグでないことを悟った。

話を戻そう。「戦国上州の刀剣と甲冑」では行光、正宗といった名刀の向こうで、われわれの「大刀剣市」で力を貸してくれる、石田國壽、高橋恒蔵、工藤将成三刀匠合作刀製作の動画がひとときの休憩用に流されている。彼らとも

根もののふの里美術館「開館記念講演で春日大社の二号胴丸を語るくだり、二号と言っても、これじゃありませんよ」と言っ

「歯が痛い芳賀です」と言っ

「おつ、いいね、武田勝頼か。数えてみよう」と言っ

「おつ、いいね、武田勝頼か。数えてみよう」と言っ

「おつ、いいね、武田勝頼か。数えてみよう」と言っ

「おつ、いいね、武田勝頼か。数えてみよう」と言っ

9の折々
美術館恋し

石井 理子

筆者は奈良県在住

美術館が好きだ。

あの独特の静けさ、一点の物と向かい合う心持ち、観終えた後の程よい疲れ。

そうだ、美味しいコーヒーのあるカフェがあれば、なお嬉しい。

この業界に入ってできるようになったことがある。

刀剣や刀装具を観る時の「学びの眼」と、鑑賞陶器や茶道具、時絵、絵巻などを観る時の「楽しみ

の眼」。二種類の眼を使い分けることだ。なんだか楽しみが二倍になったよう

さて、東京の会に行くようになったこの数年、時間を見つけては美術館に行くのが楽しみだ。東京は、やはり美術館が多い！ 内容も充実している。

そんな風に、亡き父とよく話していたのを思い出した。



今年こそは再会したい。

常設は、群馬の誇る埋蔵文化財から近代戦後の富士重工業のスバル360まで見ごたえのある展示となっているが、上州兜を見にきてこれを見逃す手はない、というものが、戦国期の資料の中にある金箔押し一部朱漆塗りの丸胴だ。

中世の胴丸から当世具足への過渡期の形状の甲冑として始まるものだが、名前からして胴丸どう違うのか、という論争はまだ終止符を打たない。いや論じることが楽しく、打ちたくない愛好家もいるのだからいいではないか。いつの日か、当組合員にもさわりだけ伝えたいと思っている。

私は美術倶楽部に行く、いつも美術館の宣伝チラシを持ち帰っていた。茶の湯をこの上もなく愛していた父は、「これ観に行きたいな」「これは、いつぞの茶会に使えばいいなあ」と喜んで

「じゃあ、私が東京に行く時に一緒に行っ、美術館巡りしたらええやん」と言っているうちにコロナ禍となり、父は亡くなってしまった。言ったことをすぐに実行しない、ボンクラ娘の親不孝だ。

その後、私は根津美術館と五島美術館に行った。双方とも、素晴らしい茶道具の展覧だった。

父の写真をカバンに忍ばせていた。独特の審美眼を持っていた父の眼となれるように……。

秋は美術館のシーズンだ。今年は、久々に地元奈良の正倉院展を観に行こうかと思う。

ポスターの「漆背金銀平脱八角鏡」の美しさに心が躍っている。

刀 剣 界

質問箱

第十五回

石堂各派の作風

回答者 ● 冥賀 吉也



共通する作風
・姿の姿違

石堂一派全体の活躍年代を寛永十年（一六三三）ごろから元禄十五年（一七〇二）ごろまでと仮定した場合、その間は約七十年あります。当然、姿は変化します。

最初期に活躍した紀州石堂の康広や、江戸石堂の光平・常光の初期作の姿は、やや長寸の二尺四〜五寸前後で身幅頃合い、元幅に比べて先幅が一段と狭く、踏み張り心があり、反りは比較的深くつき、中切先の姿、いわゆる慶長新刀姿から寛文新刀姿に移行する過渡期の姿となります。

その後、石堂一派の多くの刀工が活躍した寛文前後は、刃長二尺三寸前後にて身幅・重ねとも頃合い、元先の幅差がややあり、反りが四〜五分前後で中切先の、いわゆる寛文新刀姿が主流となります。

元禄ごろになると、やや先反りが加わり、中切先延び心となる姿に変化します。

おのおのの刀工の姿は活躍年代に即応したものと考えていい。

・地鉄について

小板目肌・板目肌に流れ肌が交じったものなどが主流ですが、中には柁目肌に近いものもあります。地には映りが弱く現れ、しかも規則的となり、鎗地が柁目となる点が大切な見所です。

・刃文について

匂本位の丁子乱れで、おのおのの刀工によって特徴のある刃文を焼いています。

・帽子について

多くは小丸あるいはたるみ込んで先小丸などですが、多々良長幸や福岡石堂の是次・守次らのように特徴のある帽子もあります。

・彫物について

と、是次の丁子乱れの頭は角張るのに対し、守次は丸みを持ったものが多く見られます。是次の方がより華やかな大逆丁子乱れが多いです。また、石堂一派全般に彫物のあるものは少ないのですが、守次は彫物を得意としており、簡素ながら締まった上手な彫り物があります。

次に、福岡石堂全般の特徴を挙げると、比較的反りが高く、姿の良いものが多いです。地鉄は板目が流れ心となったり、強く流れてほとんど柁がかった鍛えもありま

す。刃文は総体に逆がかるものも多く、まま鎗筋を越えるものもあり、純然たる匂出来ではなく、小沸付き、刃中に細かい砂流しを交えたり、「烏賊の頭」と形容される独特の逆丁子刃や、尖り刃が交じったり、同時に刃中に焼きの抜けたような丸い玉が入ることがあります。帽子は乱れ込み、一段と焼き深く、返りも長く焼き下げ棟焼きがかるものもあります。（図⑤）

●紀州石堂

康広：寛永ごろの姿。地鉄は小板目が詰んで、肌に白け心があり、その中に黒く映りが出るものが多いです。刃文は匂出来の丁子乱れに焼き幅が一段と高く、刃中に足・葉があまり入らず、焼刃の出入りの落差はあまり目立たず、丁子に大小の変化をつけています。帽子は乱れ込んで浅く返るものと、たるみ心の両様があります。（図⑥）

●大坂石堂

長幸：前期作の与三左衛門尉祐定写しと一文字写しの両様があります。共に匂口がよく締まって明るく冴え、尖り心の刃文を交え、帽子にも見所があります。すなわち、

乱れ込んで先が尖り、やや深く返る独特の帽子となります。

・与三写し

姿も二尺前後と寸詰まり、先反りつき、鎗地を削った与三の姿を再現しています。地鉄は小板目肌

詰み、地沸細かにつき、乱れ映り立ち、刃文は腰開きの複式互の目乱れに尖り刃交じり、小足・葉入り、締まって冴えています。そして、元から先まで同じ調子で焼いています。尚石堂一派の末備削写しは長幸以外には見られません。（図⑦）

・一文字写し

寛文新刀姿にもう少し反りの加わった姿が多く、まれに長寸のものもあります。刃文は重花丁子・尖り刃・小丁子・腰の開いた互の目などを交え、焼きに高低が目立たず、元から先まで平均して焼き高く、華やかに乱れるものが多い

です。一文字風の刃文の中に腰開きの複式互の目を交えた、一文字と末備前の折衷的な刃文が大きな見所でもあります。（図⑧）

●伊賀石堂

鎮忠：慶長八年紀の初代鎮忠の刀が金刀比羅宮に所蔵されています。が、作風は平高田そのものです。高田の地から紀州に赴き、紀州石

堂との交流があったから丁子刃に変わりました。鎮忠・鎮政には二代あり、伊賀名張の地において鍛刀しています。寛文新刀姿に、地鉄は板目肌やや流れ、映りが立ち、刃文は匂本位の丁子乱れを焼き、石堂風です。現存する作品は少ないです。（図⑩）

●近江石堂

前回の解説で「近江石堂は新刀期の鍛冶でなく、室町期に近江国蒲生郡石塔村で鍛刀した鍛冶集団の総称」と説明しましたが、これは誤りでした。お詫びして、次のように訂正します。

『日本刀工辞典』に「初代一峯を近江石堂の一派とし、作品直乱又は乱刃」とあり、二代一峯を初代一峯の子、江戸にても作るとし、その出来乱刃、初代同様のもの、又は石堂は同様のものであるも

●福岡石堂

是次・守次の作風はよく似ていますが、わずかの相違点を挙げる

①刀 銘 泰信法橋源光平

②脇指 銘 対馬守橋常光

③刀 銘 対馬守橋常光

④脇指 銘 武蔵大掾是一

⑤脇指 銘 筑前國福岡住守次

⑥刀 銘 紀伊國當一康廣

⑦刀 銘 多々良氏長幸

⑧刀 銘 長幸於摂津国作之

⑨刀 銘 備中守橋康廣

⑩脇指 銘 肥前守藤原鎮忠（二代）

⑪刀 銘 江州住人佐々木善四郎源一峯



日本刀・刀装具
販売・買取

創業
38年

株式会社
美術刀剣 松本

代表取締役 松本義行

Tel.03-6456-0889

東京西葛西店/東京都江戸川区西葛西6丁目13-14丸清ビル3F
刀剣松本 検索

丁子刃を最も得意とする」とあります。

作風は、板目に流れ肌交じり、乱れ映り立ち、刃文匂勝ちに小沸の付いた丁子刃やや逆がかり、こずみ、刃中に細かい砂流しから一見は一の作風に似るも、鉦元に短い直ぐの焼き出しがあり、帽子の返りも深いです。（図①）

《参考文献》『刀剣美術』『紀州の刀と鐔』『麗』ほか

ブック・レビュー BOOK REVIEW



西郷隆盛は、幕末維新期をテーマにした歴史ドラマには必ず登場し、日本人には広く知られた人物である。安定感のある、どっしりとした容貌から、ちょっとやそっとのことではびくつきしない人……。一言で言えば大物として、西郷さんは認識されているのではあるまいか。筆者もそんなイメージである。

西郷さんは傑物である。が、実のところ、そうした人物像は、

この本は、幕末維新史に精通した家近良樹氏が、これまでの研究成果を総動員し、そして西郷隆盛書簡という究極の一次資料を読み込んで構想を練って仕上げた、すぐぶる優れた評伝である。

西郷さんならこういう人だろう、という意思での行動に違いない、という憶測を可能な限り除き、信頼性の高い史料に基づいて、幕末から

明治十年までの西郷の栄光と挫折と破滅が生きて書かれている。その結果、歴史ドラマや小説からは知り得ない人間西郷隆盛の姿が浮かび上がり、とても読みごたえがある。誰の人生にも喜びと悲しみの起伏があり、日々の悩みもある。西郷さんの場合、その起伏が特に大きく、特に悩みの谷は深かった。敬愛する上司（島津斉彬）との死別と絶望、新たな主（島津久光）との確執による遠島。西郷さんは歴史の表舞台からある時は退場を余儀なくされ、またある時は自らの意思で退場した。

だが、薩摩藩は、そして時代は西郷さんが必要とした。鳥羽伏見の戦いと江戸城攻防での勝海舟との交渉は彼の人生のハイライトで、まさ

に「英雄」「英傑」と呼ぶのが相応しい活躍ぶり。だが、後半生は……病魔と老いには、さすがの英雄も勝てず、若い頃の西郷さんなら絶対にしないであろう失敗をし、非業の最期を遂げる。

そんな西郷さんの姿を、著者は史料に基づいて懸命に追いかけてゆく。そして西南戦争後、西郷隆盛像はどのような変遷を遂げたかについて述べ、六百ページ近くに及ぶ大著は幕を閉じる。著者の優れた筆力で、読ませる一冊となっている。

（小島つとむ）

■家近良樹（いそちか・よしき）一九五〇年、大分県生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。中央大学博士。大阪経済大学客員教授（幕末維新史）。『幕末政治と討幕運動』『徳川慶喜（幕末維新の個性）』『老いと病でみる幕末維新』『ある豪農一家の近代』など著書多数。

数年前に地元ではない警察から電話があり、私が扱ったらしい脇指の照会がありました。経路と登録番号の確認でした。

その時点で一年前ぐらいのことだったので、「調べて返答する」と伝え、早速確認してみると、私が交換会で売却したものでした。警察に電話をし、私がA氏に売却した脇指であると言った、「ああ、そうですか」で終わりました。

売却した先で何か問題があったのは想像できますが、例によって警察は詳しい事情は教えてくれません。

程なくして私が交換会で売却した相手A氏から謝罪の電話があ

り、事のあらましがわかりました。それによると、A氏からB氏に渡り、さらにC氏に行き、C氏が登録証に記載された長さを改ざんしたらしい、とのことでした。

その脇指で事件を起こしたのではなく、別件で問題があり、偶然に改ざんが露呈したということらしいのです。

私もA氏も売買に関しては何の問題もないのですが、やりきれない気持ちでいっぱいです。その後、警察からは何か言ってくることはありませんでした。

いずれにしても不可抗力なことですが、実際にこういう問題が起こってしまうという現実、刀剣を扱う者としてやるせないし、心が痛みます。（登録証問題研究会）

大阪刀剣会
吉井唯夫

大阪府中央区日本橋二丁目一
TEL 〇六・六六三・二二一〇
FAX 〇六・六六四・五四六四

刀剣・小道具・甲冑武具
飯田高遠堂

代表取締役 飯田 慶雄

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

http://www.iidakoendo.com

アオバ企画株
高橋一

〒130-0012
墨田区大平四一九二二一三〇八
TEL 〇三・三六二・二二二一
FAX 〇三・三六二・二二二五
メール aobak@pj8.sonet.ne.jp

江戸屋

名品・名刀を販売
店主 小暮 昇一

〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1
TEL 0749-421-2736
携帯 090-3162-17641
http://www.goushuya-nihontou.com

はないかと思ってしまう。鎌倉時代や室町時代に流行したとされる華やかな色目の威も、実は遠目から見ただけで周囲の景色の色に紛れ込んでしまうように映ったかもしれない。大鎧の絵巻はそんなことはなさそうだが。

（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会理事 佐々木亮）

NEWS & TOPICS

新発見の甲冑は近藤勇の遺品か

富山県高岡市の国泰寺で新選組の近藤勇が身に着けたと伝えられる甲冑が見つかり、四月に射水市新湊博物館で公開され、話題を呼んでいる。

兜には、蛇の目紋の前立が付き、鎧の背面には旗を立てるための金具もある。近藤勇が甲冑を着けたのは生涯に一度だったとも言われ、きわめて貴重なもの。

甲冑が発見されたのは、高岡市太田にある臨済宗国泰寺派の総本山、国泰寺。徳川家にゆかりの寺



近藤勇の遺品とみられる兜

で、三代家光をはじめ歴代將軍の位牌も安置されている。

この国泰寺と近藤勇を結びつけたのは幕府に仕えた山岡鉄舟で、宝物台帳に、近藤勇の遺品としてこの甲冑を奉納したと書かれているという。

鉄舟と国泰寺との関わりは深く、書を得意とした鉄舟が屏風千二百双、額一万枚を書いて資金を集め、廃仏毀釈で荒廃した寺の再建に力を尽くしたと言われている。

鉄舟は新選組の前身となった浪士組を結成し、近藤勇とも交流があったことから、明治維新直後、戊辰戦争の爪跡が残っている東京周辺では供養がしづらというところで、富山にある幕府ゆかりの寺に遺品の甲冑を奉納し近藤の供養をしたのではないかと、地元では高く評価している。

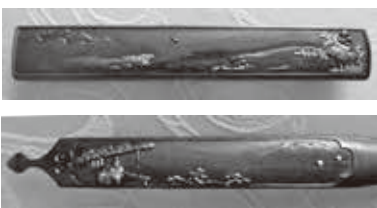
私が出会った珍品・逸品

地鉄で和歌を表した笄と小柄 野田一郎

ほのほの あかしのうみのあさきりにしまくれゆくふねをしそおもふ

柿本人麻呂

赤銅・臙銀の地鉄をイモ継ぎにして、全体に明暗を出す。地板を彫出し、鋳下げて、遠近感を狙う。魚子打ちの強弱とぼかしが、空気を表す。それらの色彩効果は溶け合っ



け合っ和歌が浮かび上がる。「ほのぼのと明けてゆく明石の海」は、赤銅の黒から臙銀へのグラデーショ

ンで明けてゆく。「朝霧」は魚子の強弱ぼかしに託し、「島隠れゆく」の遠景は鋳下げて臙銀に見え、隠れさせる。主人公の「人麻呂」は、いまだ明けやらぬ庵の中に控えめに金象嵌され、視線は遠くの帆船を見つめる。「船の行く旅先の無事を祈るの心」を最小限の象嵌で表現している。

これらの効果は融合して絶妙に詩的情景を豊かに醸している。

銘は「八辻 勝肥」と刻され、「会津で修業し江戸に住む」と書にあるが、江戸での活躍は知られていない。しかし、独創的な企画、表現、技術力は、上位金工の作に肩を並べられる。

こんな作品に出合える、この金工界はますます楽しくなる。

甲冑の話題

（二社）日本甲冑武具研究保存会

16

編集部からは「甲冑に関する話題を」と言われたのですが、当会が関わる甲冑の話題は少々ネタ切れか二番煎じの感もあり、また当紙には他にも甲冑について楽しい記事を書かれている方がいらっしゃると思いますので、今回はオチのない話を思いつくままにしてみようと思います。

言われれば何となく気づいていただける方もいらっしゃると思うのですが、日本の甲冑は割と色彩が豊かなものではないかと思えます。とはいえ、時代や地域、個人立場によって必ずしも色彩豊かな甲冑が用いられていたというわけでもありません。

ある時、新幹線の手窓から景色を眺めていて思ったことがあります。それは、当時の人たちに「鎧武者」はどのように見えていたのだろうか？ということ。ここで言っている「どのように見えて

「登録証問題」を考える 30

事例 43 もう一つの側面

数年前に地元ではない警察から電話があり、私が扱ったらしい脇指の照会がありました。経路と登録番号の確認でした。

その時点で一年前ぐらいのことだったので、「調べて返答する」と伝え、早速確認してみると、私が交換会で売却したものでした。警察に電話をし、私がA氏に売却した脇指であると言った、「ああ、そうですか」で終わりました。

売却した先で何か問題があったのは想像できますが、例によって警察は詳しい事情は教えてくれません。

程なくして私が交換会で売却した相手A氏から謝罪の電話があ

り、事のあらましがわかりました。それによると、A氏からB氏に渡り、さらにC氏に行き、C氏が登録証に記載された長さを改ざんしたらしい、とのことでした。

その脇指で事件を起こしたのではなく、別件で問題があり、偶然に改ざんが露呈したということらしいのです。

私もA氏も売買に関しては何の問題もないのですが、やりきれない気持ちでいっぱいです。その後、警察からは何か言ってくることはありませんでした。

いずれにしても不可抗力なことですが、実際にこういう問題が起こってしまうという現実、刀剣を扱う者としてやるせないし、心が痛みます。（登録証問題研究会）

大阪刀剣会
吉井唯夫

大阪府中央区日本橋二丁目一
TEL 〇六・六六三・二二一〇
FAX 〇六・六六四・五四六四

刀剣・小道具・甲冑武具
飯田高遠堂

代表取締役 飯田 慶雄

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

http://www.iidakoendo.com

アオバ企画株
高橋一

〒130-0012
墨田区大平四一九二二一三〇八
TEL 〇三・三六二・二二二一
FAX 〇三・三六二・二二二五
メール aobak@pj8.sonet.ne.jp

江戸屋

名品・名刀を販売
店主 小暮 昇一

〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1
TEL 0749-421-2736
携帯 090-3162-17641
http://www.goushuya-nihontou.com

はないかと思ってしまう。鎌倉時代や室町時代に流行したとされる華やかな色目の威も、実は遠目から見ただけで周囲の景色の色に紛れ込んでしまうように映ったかもしれない。大鎧の絵巻はそんなことはなさそうだが。

（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会理事 佐々木亮）

催 事 情 報

■東京国立博物館
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 ☎050-5541-8600（ハローダイヤル）
https://www.tnm.jp/

東京国立博物館創立150年記念特別展
「国宝 東京国立博物館のすべて」

本展は、東京国立博物館創立150年の大きな節目を記念して開催するものです。150年の間に積み重ねられた約12万件という膨大な所蔵品の中から、国宝89件すべてを含む名品と、明治から令和に至る150年の歩みを物語る関連資料を通して、東京国立博物館の全貌を紹介します。

展示は2部構成で、計150件を展示。東京国立博物館に初めて来館される方には新発見の場として、親しいリピーターの方には再発見の場として、魅力的な展示内容と展覧会場を創出します。

会期：10月18日(火)～12月11日(日) 事前予約制（日時指定）



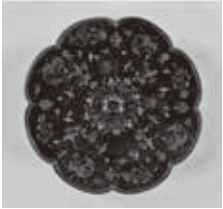
国宝 埴輪 挂甲の武人
群馬県太田市出土 古墳時代

■奈良国立博物館
〒630-8213 奈良市登大路町50 ☎050-5542-8600（ハローダイヤル）
https://www.narahaku.go.jp/

特別展「第74回 正倉院展」

正倉院宝物は、かつて東大寺の倉であった正倉院に収納されていた品々で、その数はおよそ9,000件を数えます。正倉院展は、これらの中から毎年60件前後が厳選され公開される展覧会で、今年で74回目を迎えます。今年の正倉院展も例年と同様に、美しい工芸品から、奈良時代の世相がうかがえる文書まで、さまざまな品が出陳されます。

会期：10月29日(土)～11月14日(月)



漆背金銀平脱八角鏡

式年造替記念特別展
「春日大社 若宮国宝展 一祈りの王朝文化一」

今年の10月、春日大社の摂社である若宮神社の本殿（重要文化財）の御造替（社殿を造り替え、神宝や調度品などを新調する事業）が完了します。本展覧会はこの大事業完了を記念し、若宮神社に奉納された工芸品やこれまでの御造替にかかわる器物、歴史資料の数々を一堂に会し、壮麗な王朝文化の世界に迫ります。

会期：12月10日(土)～1月22日(日)

■大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

特別企画展「刀剣～古代の武といのり～」

刀剣は、日本列島には弥生時代に初めてもたらされ、その武力や輝きから神聖視され、戦いに用いる武器であるとともに、権力者の偉容を示す権威の象徴となりました。近年の研究では、刀装具を含め、中国や朝鮮半島からの影響やその製作方法など、さまざまなことが明らかになりつつあります。

本展覧会では、大阪府および古代歴史文化協議会を構成する14県の古墳時代の刀剣類を一堂に集め、刀剣から見た日本列島の古墳文化の特徴を紹介し、ヤマト王権と地方の交流や、刀剣が古墳時代社会において果たした役割を明らかにします。関東から九州にかけての古墳文化を彩った刀剣を通じて地域特有の文化を知り、文化を育んだその場所に行ってみたくなるようなコーナーも設けます。

<展示構成>

- 序 章 刀剣文化の源流
- 第1章 刀剣のはじまりと前方後円墳の成立
- 第2章 刀剣が語る巨大古墳
- 第3章 刀剣からみた王権と地域支配
- 第4章 刀剣の生産
- 第5章 刀剣に込めた想い
- 終 章 刀剣のゆくえ
- 付 章 刀剣のふるさとを訪ねて（地域紹介コーナー）

会期：10月15日(土)～12月4日(日)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。
現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■坂城町 鉄の展示館
〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2 ☎0268-82-1128
https://www.tetsu-museum.info/2688.html

企画展「二次元 vs 日本刀展 in 坂城」

坂城町鉄の展示館では、開館20周年を記念し、「二次元 vs 日本刀展 in 坂城」と題して、漫画やアニメなどの人気クリエイターたちが考案した日本刀を展示します。本企画展の開催目的は、日本刀文化および刀鍛冶の魅力を多くの皆さまへ発信することです。そのため、展示作品の中には、地元坂城町の宮入小左衛門行平刀匠が製作した太刀もあります。また、人気クリエイターたちが描き起こした「未来の日本刀をテーマにしたイラスト」も同時展示します。

会期：9月3日(土)～11月20日(日)



■大倉集古館
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3 ☎03-5575-5711
https://www.shukokan.org/

企画展「合縁奇縁～大倉集古館の多彩な工芸品～」

大倉集古館は、明治35年(1902)に大倉喜八郎が自邸の一部を美術館として公開した大倉美術館を前身とし、大正6年(1917)に財団法人化した、現存最古の私立美術館であり、日本で最初の財団法人の私立美術館です。

喜八郎が集めたものは日本・東洋の仏教美術、絵画、工芸品、考古遺物、典籍など広範に及びましたが、大正12年の関東大震災により所蔵品の多くが災禍に見舞われます。その後、嫡子・喜七郎からの寄贈品を加え、現在の大倉集古館の所蔵品が成り立っています。

本展では、大倉財閥ゆかりの刀剣と中国の陶俑を中心とし、中国の染織品、タイの美術品など、「他人の集め得ない物を大たばに、大づかみに集めた」大倉コレクションのうち、関東大震災の爪痕を残す作品も含め、長く公開されなかった貴重な工芸品を、東京国立博物館の優品とともに展覧いたします。

本年は大倉美術館が公開されてから120周年、財団法人大倉集古館が設立されてから105周年の節目の年となります。大倉集古館ならではの作品を通して、明治から昭和にかけての美術品収集の軌跡をたどります。

会期：8月16日(火)～10月23日(日)



■東北歴史博物館
〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1 ☎022-368-0106
https://www.thm.pref.miyagi.jp/

特別展「みちのくのサムライたち 東北武士の系譜」

平安時代における武士の誕生から、中世東北武士の躍動、名実ともに政治・経済・文化の中心的存在として現在の東北にも大きな影響を与えた近世大名まで、東北における武士の歴史を追うことによって、日本史における武士という存在がいかなるものであったのか、現在のわれわれにどのような影響を与えたのかをあらためて考えたいと思います。

また、武士の主要な武器であり、武士の精神性を象徴するようになる日本刀について、特に武士の誕生・成長との関係という視点から、その変遷を追います。

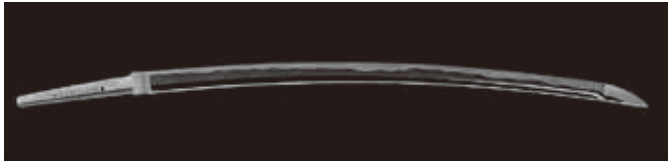
会期：10月1日(土)～11月27日(日)

■日本橋高島屋S.C. 本館6階美術画廊
〒103-8265 東京都中央区日本橋2-4-1 ☎03-3211-4111
https://www.takashimaya.co.jp/nihombashi/

宮入小左衛門行平展「煌」

宮入小左衛門行平師の東京で3年ぶりの個展です。弟子の作品も含め、約20振が展示販売されます。

会期：11月30日(水)～12月5日(月) 念のため開催時間をご確認願います。



■8月5日から3日間開催されました東京都主催「ものづくり・匠の技の祭典2022」に多数ご来場いただき、ありがとうございました。小さいなお子さまからご年配の皆さままで、満遍なくお立ち寄りになり、実演中の各職方の皆さんとも直接ご交流いただき、実に有意義なひとときでありました。あらためて日本刀文化に対する関心の深さを感じた3日間でありました。今後も機会を見つけて出展してまいります。ご来場、誠にありがとうございました。（公益財団法人日本刀文化振興協会）



左から明珍・吉原・大野・久保の各刀匠（撮影／トム岸田）

■去る6月1日から6日まで、日本橋三越本店美術特選画廊で「令和の刀明治の拵」が開催された。本展は長谷宝満堂と（公財）日本刀文化振興協会の協力で実現したもので、明治期の拵と、吉原國家・大野義光・三上貞直・宮入小左衛門行平・久保善博・明珍宗裕・河内一平の7人の現代刀匠作品が展示・販売された。